

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
中澤敏浩

部落解放第45回全国高校生集会

〈スローガン〉「私たちの未来に光と絆を 笑顔であふれるつながりの場」
-差別をなくすため みんなで高知にいこう-



文化祭 人権バンドとよさこいおどりが披露された

5月11日、12日にひらかれた全高活で決まったスローガン「私たちの未来に光と絆を 笑顔であふれるつながりの場」差別をなくすためみんなが高知にいこう」を舞台に部落解放運動をはじめ、反差別、人権の輪をさらに押し広げてい

くことを確認した。主催者を代表して組坂繁之・中央執行委員長は、先人たちは、厳しい部落差別と激しい弾圧に屈せず闘ってきたことを強調し「国権主義や排外主義が出てきているが、人権・平和・環境・民主主義をめざすと

若い力を未来へ

全国高校生集会

部落解放第45回全国高校生集会が7月31日、8月1日、高知市県民文化ホールを主会場にしてひらかれ、高校生13人が参加し、全国から450人が結集した。

りくみは必ず勝利できる」と呼びかけ「全国から結集した仲間とともにこの高知全高を実りある集会にしてほしい」と訴えた。

動」②「今の自分だからできる解放運動」③「親の背中を見つめて、自分と向き合おう」④「反差別の心をもった仲間とのつながりを

全体会では、基調提案を岡田健悟・中央教育文化運動部長がおこない「本集会での学習と交流をつうじて、自分自身の経験や思いを仲間へ伝え、参加した高校生一人ひとりが、それぞれの立場と役割を自覚し、輝かしい未来に向かって、大きく前進してほしい」と訴えた。

参加した高校生は、全国の高校生の新たな飛躍の場とするために、日頃の各地でのとりくみの悩みや成果、課題をもち寄り、活発な交流と議論をすすめた。



新宮支部からの報告があった第2分科会では、熱心な議論がなされた

第57回全国青年集会

- 日時 9月21日(土)~22日(日)
- 場所 和歌山県民文化会館ほか

- 12:30 受付
- 13:00 開会行事
和太鼓集団「初音」・和太鼓「心音」
- 13:30 全体開会
解放歌合唱
水平社宣言朗読
主催者あいさつ
地元歓迎あいさつ

- 来賓あいさつ
石川一雄さん・早智子さんアピール
- 基調提案
- 14:40 記念講演「今の青年に期待するもの」
松本吉弘(県連教育文化運動部長)
- 15:40 全体発言
集会スローガン
集会アピール
- 16:30 分科会
第1分科会「もっと知ろう! 仲間のことに解放運動のこと」

- 第2分科会「これからの青年部組織(について考える)」
- 第3分科会「青年部づくり」
- 第4分科会「狭山事件50年」
- 19:00 夕食・交流レセプション
- 20:30 閉会
- 8:30 受付
- 9:00 分科会
- 12:00 閉会

頑健

この夏、オリバー・ストーン(映画監督)やアンジェリーナ・ジョリー(女優)らが来日した。ストーンは、広島・長崎・沖縄を訪ね、アンジーはみずから

監督・脚本した映画の「最愛の大地」上映イベントのためである▼ストーンの別な機会にして、アンジーのことが、92年に起きたボスニア内戦をテーマにした映画の試写会でスピーチをし「友人や隣人として平和に暮らしてきた人たちが、どうして銃を向け合うのか、戦争がいかに人間を変え、言葉にできないほどの残酷な行為をさせるのか」として、民族浄化という行為にふれ「性暴力」がその手段として使われたことを語り、最後に「過去は変えられませんが、未来は私たちの自由になるのです。あなたは、その鍵を握るひとりなのです」と結んだ。ボスニアの民族紛争のなかで、地域を支配し他民族を排除する方法として、大量虐殺、組織的なレイプ(妊娠目的)などが公然とおこなわれた▼この夏、日本で68回目の敗戦の日を迎えた。戦後生まれの国会議員が8割になり「自主憲法の制定」が公然と叫ばれ、国会議員による「靖国への集団参拝」、さらに麻生副総理の「ナチス」発言まで飛び出している。そして「はだしのゲン」が▼「平和」の意味を一人ひとりがしっかり考えるときである。なお、アンジーのダンナのブラット・ピットもきていたことを付け加えたい。

(S・I)